

No.46

2005 秋季号

aaca



# 平成17年 通常総会

会長・専務理事 ご挨拶

aaca

日本建築美術工芸協会  
2005秋-2

aacaの多様な構成メンバーの力を結集しよう  
会長 中島啓彦

昭和63年11月28日に 文化庁所管の財団法人  
日本建築美術工芸協会として設立許可を得ました。  
私は 平成元年度理事に7年度より専務理事 又今頃  
思ってもいなかった会員の賛同にご参加いただき緊張  
の毎日です。 協会設立以来の16年間の活動を振り返り  
ますと、会員の方々の熱い情熱と意欲的な活動を  
思い起こし大いに刺激を受けております。

会報の「審判にあたって」 戸原義典会長のお言葉の  
冒頭に、「この日本建築美術工芸協会の会報が発表  
されます。この協会は、建築家・美術家・工芸家が協力  
し、わが国が世界の文化大国となるため頑張ろう。  
云々」ということで始まったものです。なんと今の  
わが国の現状にとって この理念こそ継承されるべきと  
思います。

又 aacaシンポジウムは「第1回 89京都市シンポ  
ジウム」にはじまり 昨年「第18回 福治安田生命

ビル街区再開発と都市環境」迄、実に内西の充実した  
ものでした。

AACA賞、戸原賞設置、160回を数えるaacaトーク  
をはじめ、会員交流講演会、建築と文化を語る夕べ等  
多くの事業が賛同に会員の献身的努力で進められて  
おります。

然し、新しい時代を築く時 協会の総意は決定の  
意志と責任を含むせめてそれぞれの委員会が有機的に  
繋がる構成でないと対応する為の行動がとれないと思  
います。 この度 専務理事、常務理事を中心とした  
企画調整会議に賛同すると共に最高機関である理事会が  
本格的に機能することが 最大の懸念事項と自覚して  
おります。

既に各委員会より、指針をはじめ具体的な行動計画の  
提案がなされつづつあります。 私は広く協会が存在を  
宣言し、会員相互の信頼関係を強にし網地を強固にし、  
魅力ある協会となることが結果として会員の意欲に  
繋がることと思います。

会員各社のご理解とご協力をお願いいたします。



中島会長



小林専務理事



日高常務理事



吉村常務理事

## aacaへの期待と路線

専務理事 小林治人

21世紀に入り、人々は有り余るモノに囲まれながら、  
日々の生きがい、心の満足・幸福など、己にとって  
かけがえのないもの、己の納得のいく人生を今度まで以上  
に求めるようになって来たのではないだろうか。

社会的に寡人だ鶴鳥のこだわりのある人生、量より質の  
追求現象とも見える社会。このことは文化化現象と受け  
止めることが出来るのではないだろうか。

この様な時、会員の皆様の強いご参加で、非力を省みず  
専務理事の差障をお引き受けすることとなりました。  
aacaを力強く、明るく、社会から期待される姿と  
するため力ながら努力を惜しまない者ですが、その  
責務を考えた時、身が引く状態に陥っています。

私は従来からのaaca懸念事項に、新しい時代性の  
サイクルを踏まえたテーマを加え、中興体制の下 テー  
マ別委員会委員長の所掌事項を会員全体の理解・協力  
と所掌の文化科学術をはじめ関連諸分野・組織団体の

指導協力によって実施することが要諦と考えています。

今の段階では、aacaに次の期待をしています。

- 1 aacaを構成する多様な担い手の身分安定・向上道  
求段階  
文化財にかかわる専門家の職業・役割・領域の  
明確化と融合・協働化の促進  
多様な担い手間の協働の可塑性追求と拡大・促進
- 2 aaca会員による多彩な作品・製品追求段階  
会員の作品・製品の技術向上と充実支援と社会  
性付加促進、先端技術・機材の活用と環境  
・興業支援の創出支援
- 3 文化を軸とした社会資本型政策提言段階
- 4 作家・文化財出企業家などの専門指導と育成、参加  
と支援段階
- 5、内外の関連団体との文化交流促進と国際市場開拓  
段階

これら五つの路線を実施・実現するためには、財政  
強化が急務であり、そのためには収益事業、会員協賛  
など多額の課題と認識しています。

## 「バランス創造システム」と 「人の心の科学」の世紀と aaca.

常務理事 (調査研究担当) 古坂彰也

20世紀は科学技術のめざましい進歩と発達の世紀であると同時に、痛ましい戦争の世紀であったと言える。

先端科学技術の進歩は生命の誕生きもうんぬんせんばかりとなった。この人類が勝ち取った科学技術は20世紀における人類の最大の遺産である。しかしその裏面には人類を含め、地球に存在するもの多様な多様な種々各々もまた。その事業は芸術環境整備と云うかたちで21世紀に押し送られることとなった。

科学技術の進展と云う一方にのみ振り子は揺られ、陰鬱かとなるべき心の科学の進展に振り子はもどらず、バランスを欠いた20世紀と言ったら過ぎであろうか。物理・化学的手法やモルモットによる実験科学的アプローチによる人間科学の進展はみせてはいるが、人の心の科学からは断れ、結果として痛ましい事件の発生を呼び起こすこととなった。

(地下鉄サリン事件など) 良きにつけ悪きにつけ行動の制御力は最終的には人の心にある。

哲学者・梶原保は言う、「私は現在の日本人の道徳的意識を深く憂慮するものである。日本人はもう一度、真実に道徳について考えなければならぬと思うが、それには日本人の心魂を千年以上の間禁ってきた

仏教の道徳を乗り越すべきであろう。」(本年6月21日朝日新聞より)

バランス創造システムという言葉は私の造語である。

工学で教鞭をとっている者の一人として21世紀に求められる人類の課題は、既存の専門分化された分野を横断し、20世紀までの科学技術を利用・応用し、全存在のバランスを考慮したより良い地球環境を創造するシステム(バランス創造工学)の構築にあると私は思っている。と同時に制動力の源泉となる人の心の科学の進展にあると信じている。

前書きが長くなったが、去る5月17日のaaca総会で新体制が発足し、社会経験の乏しい私が常務理事と云う責任ある立場を担うこととなった。

改めて日本建築美術工芸協会(aaca)の21世紀の役割と方向性を考えたとき、「バランス創造システム」と「人の心の科学」に専らし得るエネルギーとあってはしいと断つのは当然である。それは、建築と建築環境、美術と環境技術、情報や文化事業など多岐に渡る人々が分野を超えて横断的に交流と親睦を営み、ともに交流し合う必要がある。そして共有するテーマである「より良い環境・景観の創造と保全」の実現に向けて、美意識を中心にすえたバランス感覚を持ったエネルギーとあるべきaacaの21世紀のaacaのあるべき姿であると期待している。

## 「新生aacaスタートにあたり」 画一化の波

常務理事(事業担当) 古坂彰也

日本の都市文化は金太郎餅といわれて久しい。新ビルがあり駅前にはコンビニ、ハンバーガー屋が建ち並び、新ビルの店舗は多くがチェーン店で、ショーウィンドに置かれている商品は全国津々浦々同じである。しかし最近はこの金太郎餅現象を耳にしなくなってきた。思い当たったのか、又その便利さに国民が満足した結果なのかわからない。

6月、パリに遊びに行ってきた。パリ市内は東京と変わらないが車で1〜2時間足を伸ばすと田舎地帯が広がる。駅の周りにあるものはホテルとレストランにすぎない。コンビニもハンバーガー屋もない。夜中に小腹がすいたと云ってコンビニでカップラーメンを貰う様なわけにはいかない。多くの日本人はこの時不便だと感じるのではないが、実はかく云う私もそう感じた次第。

この便利と云うサービスは恐ろしい弊害の傾向がある。サービスを提供する側は、全国同じサービスを旨とし標準化、画一化し効率性等は増進する。その結果画一化に行ってもコンビニには同じ商品が並びハンバーガーの味は全く同じとなる。此の他にも店舗は狭くもめる。日本中同じ様な気候や文化圏が建ち、家庭は市街地も田舎も全く同じ通りである。2時間乗車行動に慣れれば思い通りに東京と云う鳥籠考案しい事が日本では一般的になった。

これは、都市構成や建物だけでなく、日常生活、全てが標準化、画一化の波の中にとっぷりつかっている。

朝、テレビチャンネルを飛ばせば、どの番組も、同じ様な「ワイドショー」で、出演者が違うだけである。

フランスではワイドショーの番組は一品だけ、ドラマ、漫画、料理、体操など全く別の違う番組構成となっている。加えて日本では教育から政治迄も画一化傾向にある。全国にまらぬ子供はいじめに合い、主要を過半数政治は決断の妨げ者となる。考えさせられる風潮と思う。

新生aacaが発足して3ヶ月半となるが、10部門の委員会が積極的に活動していると感じている。

言うまでもないが建築と美術、工芸と云うやちもすると似似しそうな両種を、コラボレートさばようとする喧嘩喧嘩先生の基本理念が生かされていると思っている。

各委員会が建築、美術、工芸のエキスパートで構成され、似似と高い文化レベルを目標そうとする事はaacaでしか出来ない事業である。

他の担当事業は下記4部門で

建築委員会	文化事業委員会
新技術委員会	会員委員会

大きな目標としては、建築・美術・工芸の3部門の交流と新組合員の拡大、事業の促進であり中でも、各領域学会、展覧会の継続、個人作者への展示提供、学生への門戸開放、aaca大旗の上上げと思っている。

力不足ではあるが、画一化しない美しい協会運営が出来ればと希望しております。

# 平成17年 通常総会

平成17・18年度 理事・監事

**oaca**

日本建築美術工芸協会

2005秋-4

## 会長

中島昌徳  
建築家



大野 勝 表彰委員会、委員  
総合総合計画事務所



## 副会長

加藤尚雄 総務担当  
茨城県近代美術館館長



岡本 剛 表彰委員会、委員  
岡久米設計社長



遠川喜一 事業担当  
彫刻家



河村純一  
アーキテクトファイブ代表



杉田 博 調査研究担当  
茨城県デザイン研究所会長



片山幸則 文化事業委員会、委員長  
中央建材工業㈱常任顧問



## 専務理事

小林治人 企画調整会担当  
関東京ランドスケープ研究所会長



町見才介 表彰委員会、委員  
大成建設㈱常務設計本部長



坂上直哉 情報文化委員会、委員長  
作家



## 執務理事

日高華也 調査研究担当  
日本大学教授



佐野志彦 会費委員会、委員長  
美安井建築設計事務所社長



吉村忠雄 事業担当  
元東陽機務部長



七字祐介 調査研究委員会、委員長  
㈱タイセイ総合研究所社長



立石博巳 文化事業委員会、委員  
㈱ヒガノ相談役



## 理事

芦原太郎 国際交流委員会、委員長  
芦原太郎建築事務所代表



立野純三 総務委員会、委員  
㈱ユニオン社長



岩井光男 表彰委員会、委員  
㈱三豊地所設計事務所



深澤重幸 新規事業委員会、委員長  
㈱コトブキ会長



飯野毅一 表彰委員会、委員長  
美術コンサルタント



村松健一  
㈱竹中工務店副社長



石田眞人 広報委員会、委員長  
京島建設㈱取締役



## 監事

清水重男  
建築家



宇津野和彦 総務委員会、委員長  
㈱川工㈱副社長



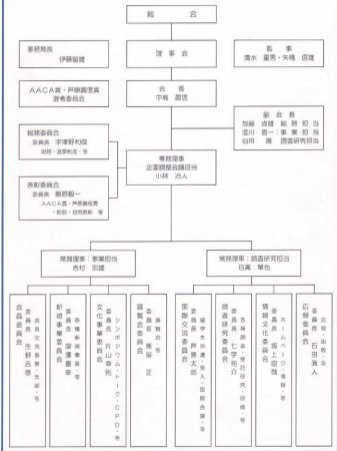
矢橋徳雄  
矢橋大塚石㈱



小宮善明  
㈱日建設計 顧問



(及いうえ志順)



# 第17回 2005 横浜 a a c a 景観シンポジウム

**aaca**  
日本建築美術工芸協会  
2005秋-6

「第17回 2005 横浜aaca景観シンポジウム」が開かれます。

開催日	2005年10月28日（金曜日）
時 間	午後1時30分より 約 4時
会 場	鶴岡新井ホール 神奈川県横浜市中区尾上町（横浜市役所北側）
主 催	日本建築美術工芸協会
後 援	文化庁、社団法人日本建築学会、社団法人日本建築家協会、社団法人日本建築士会連合会

テーマ 「横浜のデザイン戦略」 aaca副会長 山田 満

横浜市は1950年代末から 都市デザインという分野で、日本では先導的なさまざまな施策、政策を行って来ました。しかし一方、巨大な都市人口の集中により、横浜の利便性が失われ都市景観は横浜らしみの保持が難しくなっています。横浜アートビエンナーレや新横浜ターミナル等、新しい建築的、環境的な取り組みがなされる一方、歴史的な建物もその存在が薄薄になっているところもあります。多様な視角を持つ 大都市のデザイン戦略はどうかあるべきかを議論したいと思えます。

パネリスト

<p>西山 善夫氏 建築家</p>	<p>横浜のプロジェクトを通じて、横浜の歴史と景観形成</p> <p>経歴 '60 東京大学工学部建築学科卒、'65 ペンシルバニア大学美術学修士課程修了、 '68 九州芸術工科大学助教授、'71 東京大学助教授、'86 専任教授・工学博士、 '97 東京大学名誉教授・同志大学教授、'99 ペンシルバニア大学客員教授、 現筑波大学教授、西山善夫建築研究所代表、</p> <p>作品 相模女子大学、彰の園さいたま芸術劇場、聖アンデレ教会、関川歴史資料館、 聖徳中学校、逗子市文化創造センター、横浜松蔭、聖学院大学礼拝堂、ほか</p>
<p>菅 孝俊氏 建築家 都市計画家</p>	<p>まちづくりの立場からの景観形成</p> <p>経歴 '65 東京大学工学部建築学科卒、'65 練大高建築設計事務所勤務、 '68 高野設計事務所勤務、'74 逗子市役所、'83 林山手総合計画研究所設立、 横浜プランナーズネットワーク代表幹事、横浜まちづくり倶楽部理事、</p> <p>作品 対面河立図書館、伊乃子市民図書館、日本人館、横浜ドッグヤードガーデン、 金沢シーサイドライン保安地区計画、浦北Nタワーセンター地区計画 ほか</p>
<p>高橋 昌子氏 建築家</p>	<p>新しい建築形態と景観形成</p> <p>経歴 '80 京都大学工学部建築学科卒、'86 東京工業大学博士課程中退、 '86 藤原一男アトリエ勤務、'88 高橋興とワークステーション設立、 '04 立命館美術大学教授、</p> <p>作品 高知県立坂本尾島記念館、岐阜県住宅ハイタワンの北方、佐川町立倉庫、 野和山動物園ふれあいフォーナー、横浜トリエンナーレ2005会場設計、ほか</p>
<p>国吉 直行氏 都市デザイナー</p>	<p>行政の立場より横浜の都市デザイン・景観形成</p> <p>経歴 早稲田大学理工学部建築学科卒、司 修士課程修了、 '71 横浜市役所入庁、以来35年間都市デザイン担当、 '01 都市計画局都市デザイン室室長、 '04〜都市整備局上席副室長エクゼクティブアーバンデザイナー、</p>
<p>樋口正一郎氏 美術家 都市景観研究家</p>	<p>環境アーティストとしてアートワークと景観形成</p> <p>経歴 東京芸術大学 彫刻科卒、東京大学建築学科研究員、 横浜市の研究の経が 彫刻、造形作家、写真家、評論家として活躍、</p> <p>作品 横浜地下鉄大江戸線横浜白川駅 壁画アート、ほか</p>
<p>コメンテーター 田村 昭氏 都市計画家</p>	<p>経歴 '80 東京大学建築学科卒、'53 司法法律科卒、'63 環境開発センター計画部長、 '68 横浜市企画調整部長、局長、技監、'81 法政大学教授、'97 名誉教授、</p> <p>著書 『横浜市コハマをつくる』（中央公論社）、「まちづくりの発想」（岩波書店）、 「まちづくりの実話」（岩波書店） ほか</p>
<p>コーディネーター 山田 満氏 環境建築家</p>	<p>経歴 '64 東京工業大学建築学科卒、関川建築設計事務所勤務、 '68 環境デザイン研究所 設立、'89 名古屋工業大学社会開発工学科教授、 '92 東京工業大学建築学科教授、'01〜'03 日本建築学会会長、 '04〜aaca副会長、'05〜東京工業大学名誉教授、環境デザイン研究所会長</p> <p>作品 東京都品川区水産漁、ミュージアムパーク宮城県自然博物館、兵庫県立西馬ドーム、 高崎市わんぱく公園、愛知県環境総合センター、北九州海城ドラマシップ、ほか</p>

「ホームページを通して情報交換の拡充に努めます、より会員相互の連携を高めましょう！」

URL <http://www.aacajp.com>

情報文化委員長 坂上直哉

### ■aacaにおける「情報文化委員会」の役割

aacaが時代の文化に導くため、インターネットの利用によって、会員の居住地、年齢、性別、職業を超えた会員相互の交流が活性化するように努めます。

1. 会員・非会員へ様々な情報発信をし、公共の文化、芸術、美土に資することを目指します。
2. 日常的にも、弱と境界を超えて会員相互が自由に情報交換が出来る交流の場を創ることを目指します。
3. 今日まで、多くの文化創造は、人と人が異なる思いあみえることによってなされてきました。しかし、近い将来には、会員である多様な職能人が、その時代にあった情報機器やソフトを通して、弱と境界を超えて、ひとつのプロジェクト（文化）を創り上げていくことも考えられます。

### ■今後の計画

段階	目指す活動	研究課題
ステップI (05年度)	会員に向けての情報発信・交換 →会員は所定済に際わらず会の動きをタイムリーに把握可能に (HPを通して会員以外の人にも情報は提供)	aacaとしての情報発信 について
ステップII (06年度)	会の外に際た発信方法、内容を検討、実施	情報がもたらす変化について
ステップIII (07年度)	会員・非会員双方の情報交換による文化創造 IT（PC・データ連携技術構築）からTF（創造的情報技術構築）へ	情報発信並びに構築システムがもたらす効果について

### ■委員会メンバー

（委員長）坂上直哉

（委 員）石井博美、長谷川亨、露口典子、村井久美、武田有佳、荒井里雄、田中達、飯島真子、高城和文

### 『会員紹介ページ』掲載募集のご案内

“会員～会員並びに会員～非会員への情報発信拠点”と位置付け、その活性化と拡充を図ることに致しました。『会員紹介ページ』に各自活動や作品、展示会等の案内を掲載、各自E-メールへのリンクなどを通じ、双方向性のある情報交換の場の創出を目指しています。

掲載要約

URL <http://www.aacajp.com>

E-mail [info@aacajp.com](mailto:info@aacajp.com)

掲載対象	正会員 法人会員	
掲載内容	会員各社の活動、作品の紹介と展示会の案内などを 写真4点を添え 印刷サイズA4用1ページにコンパクトにご紹介します。	
掲載場所	協会ホームページ→会員紹介→会員名→会員紹介ページへ	
掲載費用	初年度	作成・維持管理費 5,000円
	次年度以降	維持管理費 2,000円
	掲載内容更新	更新料 1回につき 1,000円
	ご入金方法 郵便振込み用紙に 会員紹介ページに作成・維持管理費又は維持費を明記のうえ 郵便振込口座 00110-2-365085（社）日本建築美術工芸協会 にお振込みください。ご入金確認後 エントリーシートに宛てお戻しします。 *年度：申込エントリー当年を初年度とし、毎年4月1日以降次年度扱いと致します。	

申込方法は写付のエントリーシート 又は協会ホームページ→会員紹介ページに掲載のシートに事項を御記入のうえ 事務用まで FAX 又は Eメール にてご送付願います。

『会員紹介ページ』は多くの会員の参加が重要で、多数の会員の申し込みをお待ちしています。

## 新入会員 御紹介 (2004年11月～2005年7月 入会)

## 正会員

西原一夫 (勤) 〒102-8678 千代田区一番町31	№03-3285-4611 筑博高橋
北嶋研治 (勤) 〒522-6002 彦根市松原南1247-1-101	№0749-26-9738 アビエルタ建築・都市
藤原 栄 (勤) 〒164-0014 中野区南台3-22-1-512	№03-3383-1784 エスアイ建築事務所
金井隆次 (勤) 〒220-0023 横浜市西区平沼1-30-7	№045-321-0929 三井建設㈱
馬場功治 (勤) 〒145-0066 大田区南雪谷2-17-8	№03-3727-5751 サンユー建設㈱
工藤兼博 (勤) 〒100-0005 千代田区丸の内3-2-3 富士ビル	№03-3287-6808 第三建設所設計
伴 紀子 (勤) 〒171-0022 豊島区南地蔵2-47-4	№03-3987-1811 大地設計
島崎忠徳 (勤) 〒144-0052 大田区蒲田4-22-8	№03-5703-1441 テック大洋工業㈱
高神宗英 (自) 〒615-8253 京都市西京区新築北山町26	№075-392-1053
岡 玄彦 (自) 〒157-0066 世田谷区成城1-22-10-201	№03-5727-2164
今村和雄 (勤) 〒260-0017 千葉市中央区要町15-2	№043-202-5541 ㈱アートマネー・シメント システム・アムスー
澤井あけい (勤) 〒541-0041 大阪市中央区北浜3-2-24北沢ビル	№09-4201-0221 アート・道
中川啓孝久 (勤) 〒617-0096 京都市内市上柳町下川岸26	№075-921-2928 (有)ソフト設計企画社

## 法人会員

美社ロック㈱	代表取締役社長	前島英晴	商品開発デザイン課 長江英人 №03-5452-5551
みほし㈱	〒105-0014 港区芝3-1-12 代表取締役	三橋孝生	営業部 部長 大下清和 №048-484-0384
東京ガス㈱	〒351-0181 和光市白子3-26-43 代表取締役	大沼 勉	都市計画・サービス部 大貫中二 №03-5322-7547
㈱インテリファシリティーズ	取締役副社長	沖田肇富	建築事業本部 石塚幸治 №03-5444-5639
旭硝子ビル建材㈱	〒108-0023 港区芝浦3-4-1 グランパークタワー26F 代表取締役	館川裕彦	営業推進開発部 鈴木秋吉 №045-212-0992
㈱ナカノフード建設	〒231-0011 横浜市中区太田町4-4旭川ビル 代表取締役社長	瀧口光夫	お客様サービス部長 安藤 泰 №03-3265-4661
宇都宮投資材販売	〒102-0073 千代田区九段北4-2-2B 取締役社長	沼内正雄	長島茂利 №03-5487-3731
㈱ナカサンドパートナーズ	〒153-0051 豊原区上田原2-18-4 代表取締役	伊佐 猛	専任 №03-5722-7757

## 会員投稿記事 募集中

## 会員の皆様へ

作品紹介、活動報告、  
研究会、懇話会等のご案内  
企業の広告、出展等のご案内  
を 会報に掲載いたします。  
詳しくは事務局にご相談ください。

## 会報について

会報へのご意見 ご希望を  
お寄せください。 (広報委員会)

発行 社団法人 日本建築美術工芸協会  
〒108-0014

東京都港区芝5-26-20 建築会館6階

Tel 03-3457-7998

Fax 03-3457-1598

Url <http://www.aacajp.com>

E-mail [info@aacajp.com](mailto:info@aacajp.com)

## 編集 広報委員会

石田 眞人 池内 泰三 北村 孝昭

瀬川 秀之 竹生田 正 中村 弘子

長谷川 亨 本田 寛之 山崎 謙子

事務局

伊藤 留雄

制作協力 中央印刷株式会社